

科学者会議(JSA)宮崎支部 **読書会のご案内**

科学者会議宮崎支部の読書会は、学会誌「日本の科学者」に掲載された論文をテーマに、自由な意見交換の場として開かれます。どなたでもご参加できますので、是非、ご来場ください。

福島原発事故6年を迎えてもなお、その事故の終息には程遠い状況にある。この中で、政府は、避難指示解除を進め、避難住民に対する支援策を打ち切り、帰還を促進する政策を進めつつある。一方、子どもたちの甲状腺がんの健診結果として、その「多発」も明らかになっている。

地球規模での環境問題にかかわるNGOで活動する著者による論文を問題提起として、政府が進めようとしている住民の帰還政策について、自由に意見を交換しませんか！

この論文をお持ちの方は、当日ご持参下さい。また、お持ちでない方は、次のJSA宮崎支部のURLからダウンロードして下さい。

http://mjasa.saloon.jp/docs/dokusyo/d20160512_j5103pdf

日時：2016年5月12日(木) 17:30～19:00

場所：宮崎大学工学部中会議室(工学部A棟2階, A-207)

今回のテーマ：学会誌「日本の科学者」3月号, 2016年

“特集：福島原発事故6年目を迎える現実”の関連論文

**レビュー：甲状腺がん「多発」の中、強引に進められる
帰還促進政策—無視される被ばくりスクと住民の意思**

著者：満田 夏花 氏 (国際環境 NGO FoE Japan)

チューター：杵渕 博樹 氏 (宮崎大学准教授 語学教育センター)

連絡先：科学者会議宮崎支部事務局

(木下, jsa-miyazaki@mjasa.saloon.jp)